



第41回 日産 童話と絵本のグランプリ

うらがわ

かわ はら く み こ
河原 久美子



かわ はら く み こ
河原 久美子
埼玉県

受賞のことば

植木鉢をひっくり返したらいる虫に自分を重ねたのがこの絵本のはじまりです。それから何度も描いて直しました。そのかいあっての大賞で嬉しいです。子供の頃に絵本の中の世界の手触りを楽しんだり色彩を味わった記憶、それらを元にこれからも絵本を描きます。

審査員コメント

ややもすると絵本は明るく元気な子を想定しがちになるが、ここではそれとは逆の、静かに内心を見つめる子が登場する。子どもは誰もが元気であるはずがない。外見は陽気な子ども、あるときは秘めた思いや悲しいことに敏感になる。この絵本は、それを見せて、感じさせてくれる。

高畠 純

STORY

「うらがわ」が好きな男の子が、休み時間に学校の中の草むらへ一人で行き、葉っぱや石のうらがわにいる虫たちを観察します。教室のカーテンのうらがわも、学校図書館もお気に入りの場所です。ある日、教室の床に横たわっているちょうを助け、外で飛ばそうとしていると、学校図書館で本を読んでいた女の子と出会いました。女の子は、男の子が図書館で描いていた虫の絵を見せてほしいと言い、友だちになります。